令和3年度 主催事業 「わくわくファミリーキャンプ」

開催日　：令和３年１１月２７日（土）～２８日（日）
開催場所：英彦山青年の家、藤川椎茸園
参加者　：５家族１８名（大人８名、中学生２名、小学生７名、幼児１名）
目標　：①聴覚に障がいのある子ども（小中学生）とその家族が、自然体験活動に取り組む機会を通して、自然のよさや自然体験活動の楽しさを味わうことができるようにするとともに、継続的に自然体験活動に取り組む家族の増加を図る。
②新しく出会う仲間や、異年齢の仲間、また青年の家の職員等との交流を通して、コミュニケーションを図る力や人間関係を形成する力、生活力等を育む。

【活動１】 椎茸収穫体験

最初の活動は、地域との連携を図り、添田町の椎茸園で椎茸収穫体験を行いました。収穫の仕方や美味しい食べ方を教えて頂いた後、園内を家族で自由に歩いて活動を楽しみました。収穫体験が初めての家族も多かったため、話し合ったり協力したりする姿が多く見られました。体験終了後には「原木から椎茸が生えているのを初めて見た」「椎茸に興味をもった」「手で取れることに驚いた」などの感想が聞かれました。

【活動2】 パワーフィールドビンゴ

パワーフィールドビンゴは、コースが書かれた「青年の家周辺地図」と、コース途中に家族で挑戦する課題が書かれた「チャレンジカード」を用いて行いました。スタート時に、他の家族とお互いに自己紹介をしてキーワード交換をする課題を設け、参加者同士の交流の場をつくりました。その後家族で力を合わせて、親孝行の人しか通れないという伝説の岩「針の耳」にチャレンジしたり、翌日の写真立て作りで使う木の実や葉を集めたりと、課題に挑戦しながら、英彦山の自然を満喫する姿が見られました。

【活動3】 火おこし体験＆バーベキュー

夕食の準備では、まずファイヤースターターを使った火おこし体験を行いました。夕食時、暖を取れるように「大きく、長く燃え続ける火をつくる」ことを目標に、家族で力を合わせて火をおこしました。麻ひもへの着火や、火を大きくすることに苦戦する様子も見受けられましたが、繰り返し挑戦し、どの家族も薪まで火を着けることに成功しました。その後も、火を絶やさないように家族で役割分担をして薪をくべる様子が印象的でした。暖かい火を囲みながらバーベキューを楽しみ、最後は、残り火でマシュマロを焼いたり、星空観察をしたりするなど、家族でのんびりとした時間を過ごしていました。

【活動4】 森のイーゼル（写真立て）作り

２日目は、「世界で一つだけのイーゼル」を合言葉に、オリジナルイーゼル作りを楽しみました。まず、山で枝を拾い、親子で力を合わせて切る活動を行いました。のこぎりを初めて使う子もいたため、最初は慎重な様子も見られましたが、時間が経つにつれて上達し、自分の切りたい長さに切ることができました。枝を切り、組み立てた後は、前日のパワーフィールドビンゴで集めた材料を使って、自分の思いを生かした飾りつけを行いました。最後は完成した写真立てを持って家族ごとに記念写真を撮り、思い出に残る活動となりました。

【活動5】 ホットドック作り

ホットドック作りでは、前日の火おこしの経験を生かして、最初から自分たちの力だけで火をおこすことにチャレンジしました。２度目ということもあって、どの家族も手際よく取り組んでいました。また、役割を決めて活動することで、コミュニケーションをとる姿がたくさん見られました。具材のチーズとウインナーのはさみ方を工夫している家族もあり、「チーズを細かくして入れよう」「ウインナーをななめに切ってみよう」など、活動を楽しむ声がたくさん聞こえました。完成後は、どの家族も笑顔があふれていました。

全体を通して

今回のキャンプでは、プログラムごとに講師に手話での同時通訳をしていただいたことで、参加者が活動内容をしっかりと把握しながら参加することができました。どのプログラムにおいても、家族で話し合ったり、協力したりする姿がたくさん見られました。また、大人が積極的に関わることで、子ども達がより意欲的に活動している姿も印象的でした。終了後のアンケートでは「他の家族と友達になれて嬉しかった」「日頃の生活ではなかなか協力することがないので、とても良い経験だった」「自然の空気がおいしかった」「星がきれいだった」などの声が聞かれ、他の家族と交流を深めたり、自然のよさや自然体験活動の楽しさを家族で共感したりすることのできた2日間だったと考えます。コロナ渦での事業ということもあり、制限もある中でのキャンプでしたが、今回の参加が、これから家族で継続的に自然体験活動に取り組むきっかけになればと思います。参加者の方々のご意見を参考にしながら、今後も英彦山の自然を満喫できる楽しい事業を提案していきたいと思います！